

木屋町の王様の手によつて、先斗町の扉は開かれた。自分を磨ける人の、新たな「溜まり場」がここに。

The Reception @ il ponto SERALE

そこに行けば、誰かに会う。あだ名しか知らないが、よく見かけるから言葉を交わすようになったヤツ。可愛い子も綺麗な子も、喧嘩っ早いヤツも、ちょっと名乗れない意味深なヤツもいたりする。「おおまいど!」「アイツは?」「あのへん」「調子どやさ?」…。他愛がないと言えば余りに他愛ない挨拶。だがそれが楽しくて仕方がない。そう思う彼らはだいたい、40歳前後。彼らは「DISCO」という言葉に過敏に反応する。そこへ彼らは、それが穴の空いたLevi'sの501でも、ヘインズのTシャツでも、その時々的一张羅を着て出かけた。そんな「溜まり場」が街から消えずいふんと経つ。

「誰かディスコつくってくれへんかなあ」。彼らのストレス話は、夜な夜な「ディスコではない場所」で飽きるほど繰り返され、遂にその声に応える男は現れた。やはりこの男だった。本誌で何度この人を紹介したか知れない。木屋町の王様、山中進さんである。彼にとってそのストレスを解消してみせることは、もはや「義務」であったか。

「完全に二極化した現代の消費構造。無機質なサービスと形骸化されたコミュニケーション、画一的な消費は消耗に変わる。一方、生活の質を求め、生き方や精神性、健康、美容に興味を持ち、アートやライフスタイルを通じて、意見交換が出来る仲間との、質の高いコミュニケーションが求められている」。同店のコンセプトシートの概略である。今回のレポートは、そのレセプション風景を追ったものだ。

先月号の特集で既報であるが、利用層のターゲットは「遊び慣れた、スタイルを持つ人」。彼らのための「大人の社交場」。ここはそんな言葉で語られることになるだろうが、その呼び名は陳腐に過ぎる。

他と比較することで、人は自分の立ち位置を知る。「今日選んできた一張羅はいけるやろか?」と、時に緊張するのも良い、恥ずかしい思いをするのも良い。男女、先輩後輩…、様々な関わりが渦巻く中で何が起るのか。磨かれるのである。ここは自分を磨く場所なのだ。ススムさんはきっとそう考えたのだ。その場所は木屋町ではダメだった。成熟した人たちが集まる場所は先斗町にこそ相応しい。「溜まり場」が当たり前にある時代はさて、再来するか。同店がその尖兵となるだろうか。

踊りにもナンパにも興味があれば、ススムさんの現在の真骨頂スタイル「ガールズバー」へどうぞ。「マッシュルームの人たちカワイイ」と来場者の女性陣からも絶賛されたお姉さんたちが、プラスティックなスタイルで接客する



▲意外にも本誌初登場のC.R.&ROCKA!の近藤進太郎さん。ハプニング中には「NO WOMAN NO CRY」を歌い場内大合唱に。勤め先のカフェ「Park」のボス・牧野さんのブッキングってことで、Kenji Jammerとはここ半年仲良し。



▲フロントアクトのTammyを出番後につかまえた。「Mercedes Benz」? 何で私の十八番を知ってるの? (笑)。なんとコンビニ前で敬愛する「ジョプリン」の名曲をフルコーラスで唄ってくれた。ニュアンス近似。感激。いや感動。2nd Album「キターとラブレター」が発売中



▲ミージョさん(左)と「明日からハワイ!」というチエゾーさん。「ゆるゆる」で「サマー」にはこんなコスチュームが最高ですねえ。って、アロハ着用でカクテルサービスだったのね。アロハの下は水着でしたが、撮影はNG。ちえ。



▲大人の貫禄と申しますかダンディズムと申しますか。平日の深夜にお楽しみのお紳士・ヨシダミノルさん。舞台美術などを手掛ける美術界の大御所でございます。ご子息がミュージシャンとか。「戸川純が来たら最高やねんけどなあ」。



▲美容師員のさちさんは、お商売柄。音段はカッコリしたお召し物らしく、アロハはお持ちじゃなかったご様子。もちろんメイクもピシッと決まっていますが、これからライブは本番です。絶対磨れるぞ。



▲テレキャスター特有のバキッとした音にディレイを利かせた、セイシルの海を思わせる音で幕が上がった。だがこの時はまだまだ序章。この直後、悪戯が落ちてきて、そして魔法がかかった。



▲Kenji Jammerの脇を固めたDr. 椎野恭一さん。花田裕之、布袋寅泰、Chara、UA、ajicoらのステージにも参加している。脇とかバックとか言えない主役級。ステージ前も喜劇な様子で印象的だった。余裕綽々のプレイは何というかも。安心感の塊。

◀Ba. 笠原敏幸さん。椎野さんと同じくMagnoliaに加えて山下久美子、吉川晃司、Chara、UA、Sugar Soul、前々号で本誌のインタビューを受けてくれたTinaらのステージにも参加。もの静かで優しいお話し口調の紳士である。



▲ユリさんとカズミさんは誘われるがまま。何となくご来場。「いやぁ、お酒を買ったら産る場所を探そうかと(笑)」。そうそう、今回はそういう感じで良いのです。何しろ会場内はデッキチェアとソファが並んでるってなもので。



▶今宵のテーマに沿って、DJやヴィジュアルは「サーフミュージック」「レゲエ」「AOR」...というライン。そうすると、いつものLab.Tribeのバーカウンターが、「カクテル(例えば古い映画だが...)」のワンシーンに見えてくる。